

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
芸術 (音楽)	音楽 I	『MOUSA 1』(教育芸術社)	1 単位	第 1 学年 A～H 組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
多くのことを学び、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。	表現を工夫したり、芸術の美しさを深く味わったりすることができるようになる。	芸術を愛好する心情を育むとともに感性を高め、心豊かな情操を培う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	A 混声四部合唱または合奏 ・お互いの声、音をよく聴きあう。	・楽譜の読み方、音楽の基礎知識について ・混声四部または四声の響きを耳で聴いてハーモニーを意識させる。	○	○		○	・各パート、パートリーダーが中心となりパート練習を行うことができたか。 ・全体での合わせでは響きに耳を傾けながらハーモニーを揃えていくことができたか。	○	○	○	4
	B 独唱または独奏 ・各パートの役割を意識し、全体的な調和に関心を持つ。	・独唱または独奏に取り組む。ベルカント唱法などの発声や楽器による発音の多様性を理解させる。また、イタリア語の発音を学びながら母音の響きの大切さを学ぶ。	○	○		○	・イタリア古典歌曲 Caro mio ben 等を演奏できたか。 ・言葉の確認を行い、発声については実際に出し方の違いについて見本を聴きながら理解できたか。	○	○	○	2
	C 世界の音楽 1 ・ミュージカルを学び、総合芸術・舞台芸術について知識・理解を深める。	・映画鑑賞をし、その中の曲を演奏する。	○	○		○	・ミュージカルの知識を身につけ、鑑賞と演奏を通じて劇中の楽曲を深く知ることができたか。	○	○	○	4
	D 世界の音楽 2 ・JAZZ について、和音の特徴やリズム、アレンジについて学び、音楽の多様性を知覚することができる。	・アレンジを中心として楽曲分析を行いながらその特徴をつかむ。		○	○		・和音の特徴やリズム、アレンジの多様性を理解できたか。	○	○	○	3
2 学 期	E ボイスパーカッション ・自分の表現したいものを相手に伝え、完成度の高い演奏を目指すために何が必要か考えさせる。	・発声法について学び、リズムを確実につかむ。	○		○		・ボイスパーカッションの音楽、リズムを身につけ、完成度の高い演奏ができたか。	○	○	○	7
	F 自由アンサンブル ・グループ、楽器編成、ジャンルを問わず、自分たちがやりたい音楽を自由に発表する。楽器の持ち込み等可能。	・何をするか考え、発表できるように仕上げる。	○	○	○	○	・最善を尽くし演奏・発表できたか。	○	○	○	7
3 学 期	G ハンドベル ・各グループで決めた曲をアンサンブルで演奏する。	・楽器の操作方法について ・和声の響きやリズムについて ・アンサンブルについて		○	○	○	・個人またはパートで練習し、皆で合わせることができる。 ・美しい音でハーモニーを感じながら演奏できたか	○	○	○	4
	H オペラ鑑賞 ・時代背景や内容を理解し、オペラのメイキング等も説明して身近に感じさせる。	・視聴覚教材の鑑賞だけでなく、実際に歌って聴かせる。				○	・オペラをより身近に感じ、その世界を感じることができたか。	○	○	○	4
											合計
											3 5

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
・授業内での実技試験(発表)および筆記試験など。	・授業内での実技試験(発表)および筆記試験など。	・遅刻・欠席、授業態度、授業内試験(実技試験も含む)など。

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
芸術 (美術)	美術 I	『新・高校生の美術 1』（日本文教出版）	1 単位	第 1 学年 A～H 組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵・彫	デ	映						
1 学 期	A 美術史概説 ・自己の興味・関心について意識し教科書の中の美術史上の任意の名品について図解及び説明できるようにする。	・美術史概説 ・プレゼンテーションスキル	○	○		○	・美術史の流れを意識して美意識や表現の多様性について知り、作品の生まれた時代・地域・社会・作者・様式・素材・技法などについて理解したか。 ・基礎的なプレゼンテーションスキルを理解し実行できたか。	○	○	○	3
	B 鉛筆デッサン ・絵画の要素と素材の特性について知る。鉛筆を用いて幾何学的形態を立体的に描写できる。 ・身近なモチーフを自身で選び、質感、形態感、固有色などを適切に描く。	・鉛筆の特徴 ・写実的絵画の理論および技法 ・モチーフをよく観察し、できるだけ正確に、また立体的に鉛筆で素描する。 ・作品鑑賞及び講評会	○			○	・光源を設定し、幾何学的形態を立体的に描けたか。 ・対象を徹底して観察したか。 ・デッサンの基礎的知識・技能を活用して、より複雑な形態を写実的に表現できたか。 ・的確で公正な自他の作品の評価ができるか。	○	○	○	1 0
2 学 期	C 校内風景画 ・写実絵画における遠近法(一点透視法、二点透視法)について理解し、制作に活かす。 ・水彩画の制作プロセスについて学ぶ。調色やブラッシュストロークなど着彩の方法について具体的に取り組むとともに、遠近感や立体感の表現方法について理解する。	・線遠近法（透視図法）について学ぶ ・本校の構内を写生する。 ・水彩画の着彩 ・空気遠近法による奥行き表現について実践する。 ・作品鑑賞及び講評会	○			○	・線的に正確で説得力のある空間が構築されているか ・場所選定の動機は明確か ・水彩画の着彩工程について知り、自作に適用できているか ・空間の特徴をよく把握し奥行きや物体のテクスチャーをリアルに表現して説得力のある絵画空間を実現できたか ・的確で公正な自他の作品の評価ができるか。	○	○	○	1 4
3 学 期	D イラストレーション ・画面構成、色面分割、転写、平塗りなど基本的なイラストレーションの技法について学び実践する。	・イラストレーションの制作 ・色彩の理論について学ぶ ・作品鑑賞及び講評会		○		○	・明度、彩度、色相などの色彩の基礎知識に基づいて美しい配色が出来ているか ・形態を意識して説得力のある色面分割ができているか ・ムラなく均一に平塗り出来ているか ・的確で公正な自他の作品の評価ができるか。	○	○	○	8
											合計 3 5

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
・作品やプリント、ブレインストーミング、アイデアスケッチなどの提出物や授業中の発言など。	・作品やプリント、ブレインストーミング、アイデアスケッチなどの提出物や授業中の発言など。	・スケッチブック、作品、プリントなどの提出物や授業中の発言など。 ・欠席・遅刻・早退、授業態度、提出期限など。

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
芸術 (工芸)	工芸 I	『工芸 I』（日本文教出版）	1 単位	第 1 学年 A～H 組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
素材や用具の性質を理解しそれにふさわしい技術の向上に努める。機能性と造形美について理解を深める。	表現の意図、工芸の目的について考え、それに基づく構想や計画を練ることができる。工芸の伝統や文化を理解し発想の幅を広げることに努める。	作ることの喜びを味わい鑑賞により創作物への関心を高める。より良い物を作るよう心がける。生活の中に工芸を生かすよう努める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現		鑑賞	評価規準	知	思	態	配当 時数
			身	社						
1 学 期	A 水牛工芸 ・素材の性質を理解する ・機能性と装飾性のバランスを考 える	・ペーパーナイフ制作 ・ペーパーナイフの機能性を考 えた上で美的な一品に仕 上げる	○	○	○	・素材の性質を生かした機能性のある一品ができたか ・身近に置く物として自分の美的な感性を表現できた か	○	○	○	3
	・用具の扱いと技法の習得に努 め、完成度を高める	・電動のこぎり、棒ヤスリ、研 磨用具等の扱いを学ぶ	○	○	○	・技術の習得に努めたか ・素材の良さを引き出し完成度を高めたか	○	○	○	1 0
2 学 期	B 製図 ・基本的な考え方を学ぶ ・三面図を理解する ・三面図で立体を表す	・製図の社会的な役割、ルール を知る ・三面図から立体図を描く ・立体図を三面図で表し、造形 を考えることができる	○	○		・製図の基本的なルールを理解している ・立体を想像し、図面に正しく表現する能力の向上に 努めている	○	○	○	4
	C 積層工芸または彫塑 ・図面製作 ・作業計画を立てる	・作りたい物を三面図で表し 計画を練る	○	○	○	・機能性と装飾性のバランスの取れた作品になったか ・図面を使って造形について考えられたか	○	○	○	1 0
3 学 期	・加工（切断、接着、切削） ・加工（モデリングとカービング）	・用具の扱いを学び完成度を 上げる	○	○		・高い完成度を目指したか	○	○	○	3
	・塗装（素地調整・塗布・研磨）	・木工用塗料とニスによる仕 上げ	○	○		・美しい塗装を目指す	○	○	○	5
										合計 3 5

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
・プリントや作品などの提出物など。	・プリントや作品などの提出物など。	・プリントや作品などの提出物など。 ・出欠状況も参考にする。

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
芸術 (音楽)	音楽 I	『MOUSA 1 』（教育芸術社）	1 単位	第 2 学年 A～H 組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
多くのことを学び、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につける	表現を工夫したり、芸術の美しさを深く味わったりすることができるようになる	芸術を愛好する心情を育むとともに感性を高め、心豊かな情操を培う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	A 独唱または独奏 ・各パートの役割を考える ・全体的なハーモニーを考える	・教科書の曲から ・楽譜の読み方 ・音楽の基礎知識について	○		○	○	イタリア語・ドイツ語・日本語の歌曲を勇気を出してていねいに歌えているか（発音、音程、リズム、和声など）	○	○	○	5
	B ボディー・パーカッションを楽しむ手拍子と足踏みだけで工夫して演奏しよう	・教科書 CD を使ってグループに分かれて表現を高める（アレンジあり）			○	○	CD を使って楽しく表現できているか（身体表現が自由にできるか）	○	○	○	2
	C 混声四部合唱または器楽合奏 ・各声部を聴きあう	・楽譜を用意し、和声を学ぶ ・楽典を学ぶ	○		○	○	各声部の音の響きを合わせ（音色・音程）美しいハーモニーを奏でているか	○	○	○	4
	D ハンドベル＆トーンチャイム ・楽譜を読み、空間の響きを聴く	・楽器を大切に使用する ・反響を考えるテンポを学ぶ		○			音の響きを大切に演奏できるか チームワークできているか（呼吸を合わせる）	○	○	○	2
2 学 期	E 和楽器の体験（三味線）	・三味線の歴史と奏法を学ぶ ・唱歌について		○		○	各部の名称を覚えているか、構え方と奏法が美しいか、ばちの持ち方・勘所が正しいか、文化譜が読めるか	○	○	○	4
	F ミュージカルにチャレンジ ・実際に制作から演奏まで体験してみる	・舞台、演技、台詞など歌と働きを通して学ぶ	○		○	○	企画、演出、脚本、演奏などチームワークを大切に表現できるか>	○	○	○	1 0
3 学 期	G オノマトベなどによる作曲 ・各自創意工夫する ・グループで創意工夫する	・擬音語や擬態語でリズムやハーモニーを工夫する	○		○		音楽表現が、自分が作った（楽譜に書いた）ものと一致しているか	○	○	○	4
	H 自由アンサンブル	・個人またはグループで何を表現し発表するか決める。 ・仕上げる。	○	○	○		テンポ、リズム、ハーモニーなど努力して音楽性を追求し表現できているか	○	○	○	4
											合計 3 5

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
歌唱、器楽、創作に必要な技能を身につけられたかなど、実技・筆記試験・提出物など。	世界の音楽を聴き、感じ、美しさを自ら評価しながら表現することができたかなど、実技・筆記試験・提出物など。	主体的、協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もとしているかなど、実技・筆記試験・提出物・出欠状況など。

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
芸術 (美術)	美術 I	『高校生の美術 1 』（日本文教出版）	1 単位	第 2 学年 A～H 組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵・彫	デ	映						
1 学 期	A 記念祭のためのポスター制作 ・作品鑑賞	・教科書等にある様々なポスターやヴィジュアルイメージ、過去の生徒作品を鑑賞する。				○	・鑑賞を通して、ポスターの役割について考え、効果的な視覚伝達デザインのエッセンスについて学習したか。 ・本校記念祭の文化や伝統について学習したか。	○	○	○	1
	・ブレインストーミング ・アイディアスケッチ ・下描き ・転写 ・配色計画 ・彩色 ・レタリング	・自身の着眼点を大切にし、テーマに沿ったアイデアを出す。 ・アイデアを様々な構図でスケッチし、構図を決める。 ・下描きを描き、配色計画に沿って彩色、レタリングを行う。	○	○			・視覚伝達デザインについて学んだことを活かして、課題に相応しい情報・モチーフ・スタイル・技法・レイアウト・配色・フォントなどを選定できたか。 ・ブレインストーミングなどアイデアを出すための知のスキルを学習し活用したか。 ・計画的に制作し完成度の高い仕上がりを目指したか。	○	○	○	1 1
	・講評会	・作品鑑賞及び講評会				○	・的確で公正な自他の作品の評価ができるか。	○	○	○	1
2 学 期	B 自由制作 ・制作内容を選択する ① 油絵模写 ② 自由画 ③ ボックスアート	・どの制作内容を選ぶか、鑑賞を通して考える。 ・ブレインストーミング・アイディアスケッチを通じて構想を練る	○	○	○	○	・名作や生徒作品の鑑賞を通じて、自分が作りたい作品や、体験してみたい技法について考え、最適な課題を選べたか。	○	○	○	1
	・選んだ制作内容を進める。 ・自身が何をどのように表現したいのか、プロセスを含め考える。 ・表現技法などをタブレットを活用し研究する。	・制作テーマ、モチーフ、プロセスなどを適切に把握しているか。 ・制作に行き詰っている場合、解決の糸口を示す。	○	○	○	○	・テーマやモチーフを自身で決め、意欲を持って制作できたか。 ・自ら完成予想図を考え、それに向かって計画的に制作を進められたか。 ・作品ごとに必要な技法や材料を知り、適切に表現に活かせたか。 ・制作過程を楽しみつつも、完成度の高い作品となるように努力したか。	○	○	○	1 3
3 学 期	・選んだ制作内容を完成させる。	・作品の完成度を上げる。	○	○	○	○	・自身の作品を客観的に観察し、完成度を上げられたか。	○	○	○	7
	・講評会	・作品鑑賞及び講評会				○	・的確で公正な自他の作品の評価ができるか。	○	○	○	1
											合計
											3 5

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
・作品やプリント、ブレインストーミング、アイディアスケッチなどの提出物や授業中の発言など	・作品やプリント、ブレインストーミング、アイディアスケッチなどの提出物や授業中の発言など	・スケッチブック、作品、プリントなどの提出物や授業中の発言など。 ・欠席・遅刻・早退、授業態度、提出期限など。

教科	科目	使用教科書・副教材	単位数	対象学年・組
芸術 (工芸)	工芸 I	『工芸 I』（日本文教出版）	1 単位	第 2 学年 A～H 組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
素材や用具の性質を理解しそれにふさわしい技術の向上に努める。機能性と装飾性についての理解を深める。	表現の意図、工芸の目的について考え、それに基づいて発想することができる。作業工程を把握し計画を練ることができる。	作ることの喜びを味わい、創作物への愛着や関心を持つ。より高い完成度を目指す。生活の中に工芸を生かすよう努める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現		鑑賞	評価規準	知	思	態	配当 時数
			身	社						
1 学 期	A 製本 ・ 素材の性質に注意し丁寧な作業を心掛ける	・ 本の構造と作業工程を把握する	○	○	○	・ ハードカバーの本を観察し、本の部位の名称や構造上の機能を理解できたか	○	○	○	2
	・ 本の構造と作業工程を把握する ・ 本の内容に合った装丁を心掛ける	・ 素材の性質に注意し丁寧に作業する	○	○		・ 素材を傷めないよう慎重に作業を進めることができたか ・ 本の美しさや機能を損ねることなく正確に仕上げる ことができたか	○	○	○	1 1
2 学 期	B 金属工芸（シルバーリング制作） ・ 作業工程を把握し正確に安全に進めることができる。	・ ろう付け技法を学ぶ ・ 指輪の装飾を考える ・ 彫りくずしによる加工技法を学ぶ	○	○	○	・ 正しく安全に作業を進めることができたか ・ 装身具としての指輪に自分の美意識を表現できたか	○	○	○	3
	・ 自分の美的感覚を表現する ・ 技術の習得に努め完成度を高める	・ 研磨して完成度を高める	○	○		・ 高い完成度を目指したか	○	○	○	1 1
3 学 期	C 木工芸（レリーフ） ・ 用途にふさわしい構成とデザインを考える	・ 指輪を入れる木箱にレリーフを施す ・ 彫刻刀の技法を活かした作品制作	○	○	○	・ 箱の立体とその用途に合ったデザインを考えられたか ・ 彫刻刀の技法の向上に努めたか	○	○	○	5
	・ 用具の扱いと技法の習得に努める ・ 丁寧に仕上げる	・ 色材とニスによる塗装	○	○	○	・ 高い完成度を目指したか	○	○	○	3
										合計
										3 5

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
・ プリントや作品などの提出物など。	・ プリントや作品などの提出物など。	・ プリントや作品などの提出物など。 ・ 出欠状況も参考にする。